

宮城県感染症発生動向調査情報

平成28年6月30日発行

— 2016.6.20 ~ 2016.6.26 — 第25週 —

1. 集計

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾病	保健所							患者数	宮城県(含む仙台市)					
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼		患者数	累計	第22週	第23週	第24週	第25週
水痘	9 1.80	4 0.40		6 3.00		3 0.60	2 1.00	22 0.81	46 0.78	771	○	○	○	○
流行性耳下腺炎	18 3.60	5 0.50			2 0.67			6 0.22	31 0.53	577	○	レ	○	○
百日咳									0 0.00	9				
感染性胃腸炎	35 7.00	39 3.90	21 4.20	15 7.50	11 3.67	28 5.60	2 1.00	215 7.96	366 6.20	9,782	◎	◎	◎	◎
手足口病	1 0.20	2 0.20					1 0.50	2 0.07	6 0.10	31				
伝染性紅斑	1 0.2						1 0.50	10 0.37	12 0.20	256	レ			
突発性発しん	3 0.60	1 0.10	3 0.60	1 0.50	2 0.67	2 0.40		13 0.48	25 0.42	758	○	○	○	○
ヘルパンギーナ	1 0.20	17 1.70						5 0.19	23 0.39	61				
インフルエンザ	2 0.25					8 1.00			10 0.11	28,044	レ			
咽頭結膜熱		6 0.60		6 3.00	3 1.00	4 0.80		22 0.81	41 0.69	469	○	○	○	○
流行性角結膜炎		1 0.33						3 0.50	4 0.33	69				
急性出血性結膜炎									0 0.00	0				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	21 4.20	28 2.80	14 2.80	2 1.00	7 2.33	36 7.20		107 3.96	215 3.64	6,026	◎	◎	◎	◎
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)									0 0.00	5				
無菌性髄膜炎									0 0.00	4				
マイコプラズマ肺炎	1 1.00	1 1.00		3 3.00			2 2.00	1 0.20	8 0.67	176				
クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0 0.00	0				
RSウイルス感染症						1 0.20		2 0.07	3 0.05	273				
感染性胃腸炎(ロタウイルス)									0 0.00	12				
拡張 疾病	マイコプラズマ肺炎(小児科)	2	2	5	1	1		2						
	川崎病							1						
	不明発疹症							5						

◎: 流行の変化について、今後の情報に十分注意
○: 発生または流行について、今後の情報に留意
レ: 発生が少なくなっている傾向

※今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 0例

2. 全数報告疾病

1類感染症: 報告なし

2類感染症: 結核

塩釜管内 男性1名
栗原管内 女性1名
気仙沼管内 男児1名(第24週)※
仙台管内 男性2名、女性2名

3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症(O157)

大崎管内 女性1名

4類感染症: レジオネラ症

石巻管内 男性1名
仙台管内 男性2名

5類感染症: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

仙台管内 男性1名(第24週)
※男児は6歳未満

【病原体検出情報】

～宮城県保健環境センター～

病原体の検出なし

～仙台医療センターウイルスセンター～

	中間報告		
	確定 第22週採取分 (5.30～6.5)	第23週採取分 (6.6～6.12)	第24週採取分 (6.13～6.19)
インフルエンザウイルスB型(山形系統)	1件	0件	0件
ヒトメタニューモウイルス	1件	0件	2件
アデノウイルス	1件	0件	2件
ライノウイルス	1件	1件	3件
単純ヘルペスウイルス	0件	0件	1件
パラインフルエンザウイルス3型	2件	8件	3件

※「パラインフルエンザウイルス3型」「ライノウイルス」が継続して分離されています。

3. 宮城県感染症対策委員会情報解析部会

【定点把握対象疾患】

[A群溶血性レンサ球菌咽頭炎]

仙南管内、石巻管内で警報継続中

[咽頭結膜熱]

栗原管内で警報値を超えた

[流行性耳下腺炎]

仙南管内で注意報値を超えた

4. 今週のコメント

【レジオネラ症】

レジオネラ属菌(*Legionella pneumophila*など)を含むエアロゾルを吸い込むことで感染します。ヒト-ヒト間の感染はありません。レジオネラ症にはポンティアック熱とレジオネラ肺炎の2つの病型があります。ポンティアック熱が一過性の発熱、悪寒、筋肉痛といった症状の後、自然治癒するのに対し、レジオネラ肺炎では劇症型の肺炎や多臓器不全で死亡することもあります。レジオネラ属菌は土壌や水環境中に生息する細菌ですが、冷却塔や浴槽水中でもアメーバを宿主として増殖するため、そこから発生するエアロゾルによりヒトへと感染する機会が増えたと考えられています。レジオネラ症の予防には、人工的な水環境を換水、洗浄や消毒によって常に清浄に保つことや、エアロゾルの発生を抑制することが重要です。

宮城県保健環境センター(宮城県結核・感染症情報センター)
電話 022-257-7228 FAX 022-256-3362
HPアドレス: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hokans//kansan-center.html>

宮城県定点週報告対象疾病の推移

